

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		709	t-CO ₂
① （温を除く 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		709

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度		令和9年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	709	t-CO ₂	702	t-CO ₂	1.0	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度		令和9年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

2016年11月に現社屋に移転、エネルギー効率の良い設備機器を導入。
また、22年度（令和4年度）より中部電力のCO₂フリー電力を導入し、大幅な削減を実現している。
その上で、さらに1%削減を目標に掲げています。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省資源・省エネルギー活動の推進など	①使用していない部屋の消灯の徹底、必要な照度を確保しうる最小限の照明にする。 ②クールビズ・ウォームビズを実施し、省エネに努める。	①夏のエアコンの設定温度は28度目標 ②冬のエアコンの温度設定は20度目標
従業員への環境教育の促進	①電気の使用量等を、社内ポータルサイトで公開し、従業員の節電意識を高める ②環境に関する講演会やセミナーを開催する	この部分だけの目標は特に設定しない。
廃棄物の抑制、リサイクルの促進	①分別回収を徹底し、資源のリサイクルを図る。 ②ペーパーレス化を進め、紙の使用量を減らす。 ③定期的に社内でリユースイベントを開催し、リサイクルの促進を図る。	この部分だけの目標は特に設定しない。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	100 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--